日本勤労者山岳連盟・静岡県勤労者山岳連盟

裾野麗峰山の会 (sine１９９４)

第２５期・１１巻　　２０２０年　１月号　　ＮＯ．221

仲間と仲間を結ぶ機関誌

すぽう

Susono Reihou Alpine Club

初雪山

山行ＮＯ．１８４５
２０１９．１１．３１
富士山

１．当面の予定

１２月　０１日（日）	中止
０８日（日）	愛鷹山・ブナ観察＝３名
１３日（金）～１４日（土）	個人山行（登山とスキー）
１５日（日）	例会
１６日（月）	東部ブロック会議
２１日（土）	忘年会・・・越前岳ブナ植樹地手入れ 温泉～合谷宅～ソバ打ち～忘年会 参加予定＝合谷・後藤・加藤・井上・芹沢夫妻・（峰田・伊藤） 下土狩６：３０出発～十里木８：００－越前岳１０：００～ １２：００～十里木１３：３０～合谷宅１４：３０
２８日（土）～３０日（月）	冬山合宿・・・メンバーで決める＝担当・後藤 井上＝３０・３１ 合谷＝２９～３１×
０１月０４日（土）	会山行　　電車で行く山＝丹沢・高松山（１/４井上＝誕生日祝）
０８日（水）	伊豆巡礼
１１日（土）	会山行
１７日（金）～１８日（土）	個人山行　（登山とスキー）
１９日（日）	第５回理事会
２５日（土） ２６日（日）	会山行　　県連交流山行＝沼津ＡＬＰＳ　徳倉山（電車で行く山
０２月　０１日（土）～２日（日）	山筋体操講習会　＝富士・三才観
０８日（土）	会山行
１５日（土）	個人山行（登山とスキー）
２２日（土）	雪山ハイクと温泉・・・星さんの都合で下記といずれか
２９日（土）	雪山ハイクと温泉・・・　　で、どちらか会山行
０３月０１日（日）	第５４期・県連総会

１月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

２月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

山岳写真の会「白い峰」作品展の講演会で、世界遺産富士山に対する思いを語る白籏史朗さん＝2014年3月、静岡市駿河区の県立美術館

白籏史朗さん死去

86歳、山岳写真家

県内でも撮影に熱

山岳写真家として活躍した白籏史朗（しらはた・しろう）さんが11月30日午後10時30分、腎不全のため伊豆の国市の病院で死去した。86歳。山梨県出身。自宅は三島市緑町。後日、お別れの会を開く。

富士山、ヒマラヤ、アルプスなど国内外の名峰を長年撮影。1977年に日本写真協会賞を受賞した。天皇陛下とも長年親交があった。

80～90年代にはSBS学苑の「南アルプス写真教室」の講師も務めた。

県主催の「秀景ふるさと富士写真コンテスト」の審査委員長を2010年度から10年間務めた。

山岳写真の第一人者として活動した白籏史朗さんは、県内でも大自然を撮影するとともに講演会を開くなど熱心に環境保護を訴えた。

南アルプスでの撮影活動をライフワークにした白籏さんは、絶滅や減少が懸念される高山植物などをカメラに収めながら環境問題に厳しいまなざしも向けた。2014年の県立美術館の講演では被写体としての富士山について、「本質を写し撮るのは大変。今も試行錯誤を続けている」と霊峰と向き合う姿勢を語っていた。

07年には当時の東海パルプ創立百周年記念事業として静岡市葵区の井川地区に「白籏史朗写真館」が設立された。南アルプスを代表する高峰などの大型写真パネルを展示し、山岳写真の魅力を伝えている。

山、自然 魅力伝える

白籏史朗さん死去 県内 惜しむ声

山岳写真家として活躍し、11月30日に86歳で死去した白籏史朗さんは、南アルプスなどでの撮影を通じて色彩豊かな自然の魅力を伝えてきた。悲報が伝えられた3日、自宅のある三島市など県内の関係者から惜しむ声が聞かれた。

白籏さんが会長を務めた山岳写真グループ「白い峰」の静岡支部で事務方を担った南條一雄さん(87)＝静岡市葵区＝は「風景の切り取り方に圧倒される。講評会では的確な助言をしてくれた」と振り返った。平井倭子さん＝三島市＝は撮影旅行などを振り返り「厳しい自然の中で鍛えられた強さと、周囲に惑わされない信念を持った人」と悼んだ。

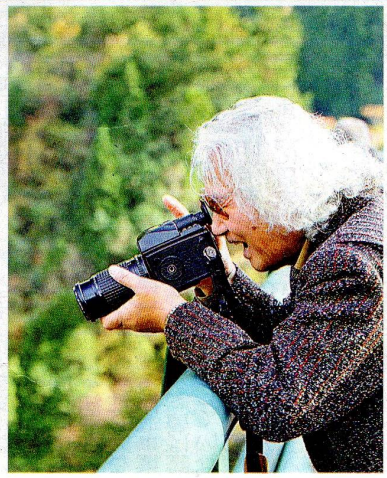
静岡大の増沢武弘客員教授(74)は学生時代、撮影で南アルプスに入っていた白籏さんに声を掛けられた。「富士山の研究をしていると伝えると、貴重な山頂の写真ネガを提供してくれた」。50年来の親交を回顧し「膨大な写真ネガが功績そのもの」と語った。

南アルプス「守るべき」 リニア計画に警鐘

南アルプスでの撮影をライフワークにしていた白籏史朗さんは、本紙が南ア国立公園指定50年に際し、2014年1月に掲載したインタビューで「リニア中央新幹線計画は本当に必要か」と警鐘を鳴らしていた。

「日本の国土を蜂の巣のようにして何のプラスがあるのか」とし「トンネルを掘れば、地下水の流路に必ずぶつかる。生態系や固有の植生にも影響する。後世のため守るべきでは」と訴えた。

静岡市葵区の井川地区にある白籏史朗写真館には毎年、登山シーズンにカメラを手にした愛好家が多く訪れる。「白籏史朗大井川流域フォトコンテスト」で入賞経験のある鷲巣茂男さん(73)＝同市駿河区＝は表彰式後の写真教室で言葉を交わした記憶を振り返り、「大先生だが気さくな方だった」と人柄をしのんだ。



写真教室で参加者から借りたカメラのファインダーをのぞき込む白籏史朗さん＝2011年11月、静岡市葵区と川根本町境の大井川に架かる新接岨大橋（鷲巣茂男さん提供）

親交があった川勝平太知事は3日、取材に「山の魂を写真で表現できる方だった」と悼み「芸術家の鋭敏な感性が捉えた南アへの愛情とリニアに対する反対を感じる。魂を受け継ぎたい」と述べた。

県によると、茶畑の奥に雪化粧した富士山がそびえる白籏さんの写真を、世界遺産富士山PRのポスターに使用している。川勝知事は「惜しみて余りある人を失った。（白籏さんの）写真芸術を大切にしていく」とした。

・リニアに高い関心があった。・静岡県三島市にお住まいだったのは、知りませんでした。

４．寄贈会報とピックアップ

「竜爪Mini」静岡勤労者山岳会・１２月号、「あさぎり」あさぎり山の会・１２月号、「くろゆり」三島勤労者山岳会・１２月１日、「あしたか」沼津勤労者山岳会　１２月号、「のいちご」伊豆ハイキングクラブ・１２月号、「山梨山の会」やまなし山の会・１２月号、「ハイキングだより」新潟・みちぐさハイキングクラブ・１１・１２月号、「山靴」練馬山の会　２０１９秋号

「吹野の森」の由来と維持について

高木　貢一

10月26～27日足尾集中山行は、会山行とのお墨付きを得て、初日は足尾近辺の沢登り、登山で日中をやり過ごし、夜はキャンプ場で会員同士の親睦に時間をゆずり、2日目は「吹野の森」手入れに動いた。そもそも足尾を選んだ理由は、当会が手塩にかけて植樹、育てた森をまず知ってもらい、そのついでに年一回の手入れを手伝っていただくことにあった。それを受けて、本稿では「吹野の森」の由来と維持について、雑感を並べることとする。

○「吹野の森」とは

「吹野の森」とは、会長経験者であった故吹野博さんのご遺族より寄贈された資金の一部を原資とし、約１０年前に会の40周年記念事業の一つとして、NPO法人「足尾に緑を育てる会」の助言、協力を得ながら数年をかけて植樹、復活させた森のことである。植えた苗木は全部で１５００本、一部は「吹野の森」以外にも散在している。

その場所だが、赤銅（ｱｶｶﾞﾈ）親水公園で車を降り、目の前のゲートをくぐる。右に重機の入った大がかりな工事現場、左には松木川の支流を見ながら少し歩いて川を渡る。この先を右に入るとやがてはるか先、最奥部といっていい山腹の一段と高いところに台形状の区域が見えてくる。ここが「吹野の森」、ゲートから見て１１時の方角である。

この区域を任されたのには良くも悪くも一応の理由があった。植樹の申し込みを山岳会の身分で行った結果、“きつい斜面で高いところこそ山岳会員のやりがいでしょ”、とのお見事な理屈を振りかざされ、あてがわれた区域なのである。苦行の始まりは申し込みの時点にあったと言ってよい。もっとも人のプライドをくすぐるのが上手な御仁のおかげで、植える苗木が無くなった時の達成感は十分なものであった。

○植樹は土の運び上げから

植樹といっても、白手袋の高貴な方の記念植樹を連想されたのでは貴賤を問わず互いに迷惑だろう。なにしろ賤にとっては植樹、これすなわち「ドロとのたわむれ」なのである。

木を喪失した山は表層土を留めおくこと能わず、自然と流れ落ちるにまかせるしかない。最後に残るのはガレキばかりだ。したがって、まずやるべきことは苗木にとっての安住の場所を確保すること、すなわち大量のレジ袋に小分けされた大量の土を運び揚げ

ることなのだ。古いボロボロのザックを持参、持てる限りの土を運び揚げる。なにしろ山岳会員なのだからと、ありもしない衆目を意識して頑張る。森の復活などという大義はほんの少し、意地を通すことが原動力だ。

一方で土をもらった植樹現場では、1ｍぐらいの間隔でガレキに小さな窪みをこしらえ、土を入れ、苗木を入れ、土をかぶせ、やさしくなでて、つっかえ棒を立てて、と一連の作業手順で処理が進んでいく。やり始めると集中してしまい、ついオーバーワークになる。ときに手を休めて見渡す足尾の山々は大規模なダム工事の現場のようだ。異様な景観だが、森を復活させるための荒療治なのだからとここは耐えよう。

○年一回の手入れに訪れる

１５００本の苗木を一回につき１５０本ぐらい植えたはずだから、都合１０回ほど往復したことになる。１５００本すべての植樹を終えたとて、これでハッピーエンドとはならない。しばらくは手入れが必要なのである。いまは少なくとも年一回、自然保護部が中心となって手入れに訪れている。

久しぶりに見る苗木は個人差が顕著だ。すでに枯れ死が明らかな苗木を見て哀れをもよおすこともあるが、確実に根付いたものも少なくない。なかにはいかにも「木」です、「苗」木ではありませんと言わんばかりのおませもいる。しっかりと育ちつつある苗木なればこそ、植樹した当人の寿命が尽きてもさらに生き延びることだろう。こうして残された森が世代から世代への贈り物となるのである。どんなメディアでさえ及ばない、次世代への強烈な、しかし控えめに構えたメッセージなのである。

○植樹した苗木の６割くらいが育つ―手入れはエニシダとの格闘

ざっと見渡して、目下のところ植樹した苗木の６割ぐらいが残っている印象だ。この先どの程度が残るのだろうか。現場は鹿の食害に備えて金網で囲んであるのだが、実際に観察したところでは、糞とか噛み跡などの痕跡を見ることはなかった。

手入れは、下草刈りおよび木に絡まっているツタ類の除去などが主な作業である。作業時間はだいたい２時間ぐらい。

例年のことだが、なかでもとくにエニシダ対策に時間の大半を費やすことになる。足尾の地によく適応しているのか、繁殖力旺盛で行くたびに繁茂しているのだ。下の方は太くて硬く、切り倒したり、根こそぎ掘り起こしたりするのは容易ではない。しかも葉が細く、ときに痛い。ノコギリで切断するのに何のためらいもないほど、エニシダは悪役として存在感を露わにしている。

とはいえエニシダにも言い分があるようだ。英国王室の源流に位置する「美男伯」なる王様（イケメンなんでしょう）が、なぜかエニシダをこよなくお気に入りあそばせ、その名を自分の王朝名にしてしまった。エニシダ様は王室御用達以上のご身分だったのである。ここにきてエニシダのことを一方的に批判するのは分が悪くなってきた、引き分けにしておこう。鹿でもエニシダでも、人間の都合で良くなったり悪くなったりするのでは、たまったものではないだろう。

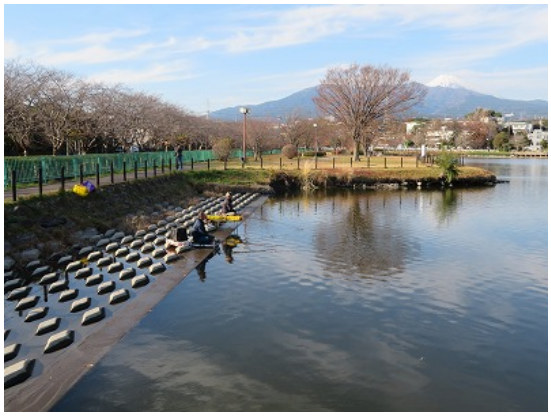
○40 周年記念の山桜も植える

植樹もいよいよ終わりに近づいた頃、栃木労山の森さん（この方は植木屋さん、例の山岳会員として努めるべきは高所での植樹、と進言した犯人らしい）から当会の山桜を植えることを提案された。１本の木の所有者になる、こんな経験は珍しすぎるが、植樹の完遂にあたり、目に見える終止符としてはうってつけ、提案にさっそく飛び付いた。場所はゲート手前の赤銅親水公園内である。

植えたものの最初のうちは枯木寒巌、生きていることさえ怪しんだ有様であったが、３年ぐらい経ってどうにか花を咲かせたのには、嬉しいというより驚いた。やっと咲いたと言わんばかりのなんとも寂しい咲き方ではあったが、だれがなにを言おうと自分の桜だ、我が子はいつも美人なのである、見事な咲きっぷりではないか。

見頃はゴールデンウィーク前あたり。今年は行きそびれたが、多分花を咲かせてくれたはずである。桜の木を所有している山岳会とはいかにも珍しい、ぜひとも訪ねてみてください。（公園内、連絡橋に向かって右側、川の近く）

「吹野の森」、「会の山桜」いずれも看板を設置していたものの、腐ったり字が消えたりでまともと言える状態にはない。吹野の森に並んで設置してあった埼玉労山の看板は見栄えよく、当会の看板に至っては比べるすべもなかった。予算を取って新たに作り変える必要をあらためて訴えたいと思います。



＊練馬山の会［山靴］NO.３２９　２０１９秋号から転載しました。
＊写真は、記事と無関係です。（沼津市・角池）

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・ＧＭ　　写真・ＧＴ
山行番	ＮＯ．１８４６
日　時	２０１９/１１/２４（日）曇～晴
山　域	羅漢寺山（１０５８ｍ・弥三郎岳）
テーマ	静岡県勤労者山岳連盟・東部ブロック交流ハイキング
コース	夫婦木神社駐車場１０：２５－パノラマ台１１：４０－羅漢寺山１２：００－パノラマ台１２：４５（昼食）－白砂山１３：３０－獅子平分岐１４：２０－長潭橋（ながとろはし）１５：２０
標高差	上り　夫婦木神社駐車場８００ｍ～羅漢寺山１０５８ｍ＝約２５０ｍ 下り　羅漢寺山１０５８ｍ～長潭橋４５０ｍ＝約６０８ｍ
快適度	５（５段階評価）＝藪はない
参加者	後藤、峰田、井上、合谷＝伊豆 14、三島 1、沼津 8、裾野 4、駿東 8、富士宮 12＝全４７名

静岡県勤労者山岳連盟・東部ブロック交流ハイクで、山梨・昇仙峡＝羅漢寺山（弥三郎岳・白砂山）へ山行。（参加者は４７名で、これ程の大人数で山行するのはこの交流ハイクぐらい）
裾野麗峰のメンバーは 6 時 45 分に長泉の平和タクシー前（現在は別建物）で大型バスに拾ってもらって合流。
バスに乗ってからも時々小雨が降るあいにくの天気で、今日の山行は大丈夫かなと少し不安がよぎったが、昇仙峡に着いた 10 時過ぎには天気は回復し、晴れて 11 月にしてはだいぶ蒸し暑い気候となっていた。
夫婦木神社駐車場を 10 時 25 分に出発、先頭集団が金桜神社の方向に道路を進み始め、登山ルートを誰も疑うことなく、全員が先頭集団について歩き始めた。
金桜神社を過ぎて、5～6 分歩いたところで、スマホで現在位置を確認すると、登山ルートと全く違う道を進んでいることが判明。すぐに先頭に道を間違えていることを連絡し、方向転換。
（井上君も間違いを指摘。47 名もいるのに誰も登山ルートを確認せずに、先頭集団についていくとはビックリであった）

夫婦木神社駐車場

金桜神社

間違えた道を戻り、出発地点の夫婦木神社駐車場を少し下っていくと、右手に羅漢寺山への道標があった。（この時点で 15 分ぐらいロスしていた）

羅漢寺山への道標

道標から緩やかな登りの車道を 30 分進むと砂利道になり、さらに 30 分程進むと鳥居が見えてきてパノラマ台に 11 時 40 分に到着。
パノラマ台はロープウェイの駅があり、日曜日ということもあり軽装で登って来た観光客で賑わっ

パノラマ台　鳥居

パノラマ台　和合権現の御神木

弥三郎岳からの眺望

弥三郎岳の頂上

ていた。また、近くに和合権現の御神木があり、面白い形をしていた。
12 時 30 分までパノラマ台で昼食の予定であったが、我々4 名はトップで来ていたので、山頂の羅漢寺山を往復してから昼食を取ることにした。
パノラマ台から花崗岩の登山道が続き、15 分程で山頂に到着。山頂には花崗岩の大きな岩をくり抜いて、三角点が埋め込んであった。眺望は非常に良く、茅ヶ岳が大きい。南アは雲が掛かっていた。
パノラマ台に 12 時 10 分に戻って来てから昼食、12 時 30 分まで 20 分もなく、ゆっくり食べる時間はなかった。（思うに最初の道間違いの 15 分ロスが悔やまれた）
12 時 30 分に集合であったが、頂上から戻って来てない人がおり、12 時 45 分に集合時間が変更になった。（後藤さんはその間、缶ビアを購入。サービスが良い店で、キノコのツマミを出してくれた上に我々にもお茶をサービスしてくれた）

ビールとキノコのツマミ

下山前の集合

12 時 45 分、下山開始。コースが分かりにくい。100mほど下り、白砂山への分岐から白砂山に登り返し、簡単に頂上着。
白砂山は花崗岩の白ザレで、北に羅漢寺山が大きく見えた。
頂上の少し横に、スペースがあったので、そこで参加者全員で集合写真を撮ることになった。

パノラマ台からの下り

落ち葉・紅葉サクサク

白砂山から分岐まで戻り、昇仙峡口に向けて下山。
途中、展望良好な「白山」に寄った。ここも白ザレの展望台だった。

白山　　展望台

白山からのゴールの昇仙峡口までの下りは結構長かった。（スタート地点 800m、羅漢寺山 1058m、ゴール地点 450mなので、登り 250mで下り 600mの山行であるから下りが長いのは当然）15 時 20 分に無事にゴールの昇仙峡口に到着。天候にも恵まれ、紅葉も楽しめていい山行であった。なお、弥三郎岳は、２万５千図では、「羅漢寺山」と表記されている。記録はそれにならった。

その他の記述（後藤）
日向八丁の日向山に似ている。ポイントから下って事件。
S 山の会の S さんがスマホを落としたことが発覚。「ザックの何処かにあるのでは」で T さんが S さんの NO に発信。すると間髪を入れず返信があった。ロープウェイ駅からだった。最初、何故返信があったか分からなかったが、駅で着信に返信しただけのことだった。実はこの話、帰りのバスの中で、意外なことが判明した・・・。

紛失したスマホはロープウェイの上駅にあった。では、どのように回収するか。
１．上駅に取りに行く・・・・・・・・・・面倒
２．着払いで送ってもらう・・・・・・・・時間が掛かる
３．下駅に送って貰い取りに行く・・・・・現実的

結局、下駅に届けてもらい、取りに行くことで決定。ただ、下山口からロープウェイ駅はバスで往復３０分以上掛かる。
それでは、帰着が遅くなるので、皆に迷惑を掛けられない。それは避けたい。S さんと私が皆より先行して取りに行くことになった。久しぶりに山道を走った。岩道でなく、フカフカ道で助かった。気温が高かったので大汗をかいた。
バスドライバーの携帯を聞こうと思って該当者に電話したが中々出ない。これは基本的でない。
長潭橋に着くとドライバーが丁度いた。すぐ出発。駅まで結構あった。スマホは無事回収。なんか手馴れている感じ。紛失物が多いのか？？バスで戻ると、皆も下山しトイレだった。先行して正解だった。復路のバス反省会で意外な話を聞いた。実は紛失したスマホを同会の仲間が拾って駅に届

けたという！！！
えええ～だったが、無くしたＳさんは、落とした意識が無かったので、その話が分からなかったようだ。ま、よくあることかも。バスは混雑もなく、いただいたワインとビアを楽しみ、おおむね予定通り帰着。楽しい一日でした。ほか、

１．下山時、Ｓさんに黄葉の「ダンコウバイ（壇香梅）」を教えて貰った。
２．私は２万５千図、持参せず基本を外した。
３．往路のバスで「羅漢」の説明。うろ覚えでいい加減な説明だった。反省。

「羅漢」とは・・・
らかんさんは お釈迦さまのお弟子さんで実在した人々です。お釈迦さまの説法を実際に聴き教えのとおりに修行に励んで煩悩を払い聖者になったのです。修行を積んで煩悩を払い真実の智慧を完成した聖者をインドで「アラハン」と讃えました。
仏教が中国に伝わり「アラハン」の発音をそのまま生かして「阿羅漢」と表現。使い慣れるうちに「阿」がとれて「羅漢」と呼ばれるようになったのです。お釈迦さまが亡くなられたときに集まった５００人のお弟子さんたちが「五百羅漢」のモデルであるといわれています。「らかんさん」は、後世の人々にお釈迦さまの教えを伝えていきました。「らかんさん」が存在しなかったら私たちはお釈迦さまの教えを知ることができなかったでしょう・・・ネット

白砂山で全員集合

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・写真・ＧＴ
山行番	ＮＯ．１８４５
日　時	２０１９/１１/３１（土）無風・晴
山　域	富士山周遊
テーマ	今季初の雪あそび
コース	長泉６：３０ー洞門発７：４９ー二合目ー幕岩東９：４５ー幕岩上ー宝永山南尾根―△１８１３ｍ１０：２８ー南尾根登山道上ー上塚コルー上塚１１：１７ー上塚・下塚コル（昼食）１１：３０～１２：０８ー下塚沢（仮称）ー洞門１２：５９
標高差	上り　洞門約１３００ｍ～宝永山・南尾根最高点約２０５０ｍ＝約７５０ｍ 下り　同上
快適度	５（５段階評価）＝藪はない
参加者	後藤、加藤・峰田、井上、星―５名

周遊道

破壊したＩ君のプラ靴

幕岩への道

超弩ピーカン！！！（幕岩上）

宝永山南尾根（仮称）

△１９１３ｍ

上塚上り

上塚（△１９２９ｍ）

下山・１

昼食

下山・２（バックは下塚）

（了）

裾野麗峰山の会・山行報告書	文・ＩＫ　　写真・ＧＴ
山行番	NO.１８４６
日　時	２０１９/１２/８（日）無風快晴
山　域	愛鷹連峰
目　的	２０１９・ブナ結実度観察
コース	竹沢種店 6:35－山神社スタート 7:25－大沢－No.1 まりこ 8:50－No.2 たかこ 9:28－割石沢—No.3 ひろこ 9:28－割石峠－呼子岳－No.4 ひでこ 9:48－割石峠－蓬莱山－No.5 かずこ 10:11－鋸岳－No.6 せつこ 10:30—No.7 としえ 10:46－番外 No.7 の 1 無名木 11:04—No.7 の 2 無名木 11:09—北面沢コル No.7 の 3 無名木 11:17—No.8 ともこ 11:34－位牌岳昼休憩 11:58～12:30－No.9 かがみ 12:30－（幼木調査）－No.10 あけみ 13:16（看板なしで見過ごしたかも）—前岳－No.11 いよ 13:21—山オヤジコース－山神社 14:32—御殿場 S さん宅（反省会）15:30～19:30—長泉
単純標高差	上り　山神社約７５０ｍ－位牌岳１４５８ｍ=約７０８ｍ（累計は多い） 下り　同上
快適度	（５段階評価）５＝藪はない
参加者	後藤、加藤、井上＝３名

1 週間前に行く予定だったブナ観察は、富士山が見事に積雪したため、雪が積もったら「雪で遊ばなきゃ」と予定を変更し延期となっていた。本日の天気は快晴。富士山の雪は先週ほどはない。先週行っておいて正解だった。

6:35 竹沢種苗店で車に乗る。山神社駐車場にはすでに車が 7～8 台止まっている。私たちの後に続いてタイヤが異様に大きい四駆が数台入ってきた。準備をして 7:25 山神社スタート。今日の荷物はアイゼンと共通装備を入れて 9kg。あのやばい鋸岳を越えなければいけないので、余計な重さは省いた。そのため、ビールは 1 本（それでも持っていく）。大沢から大杉を過ぎる。スキー用手袋をしているが指先が冷たい。手袋の選択を間違えた。雪山なら致命傷。

8:50　観測木 No.1「まりこ」。固有名は、従来の会員の女性の名前だそう。当時のまりこさんが現在会員ではないので、私の長女が真理子なので、「2 代目まりこ」襲名となった。ので、とたんに親近感がわく。

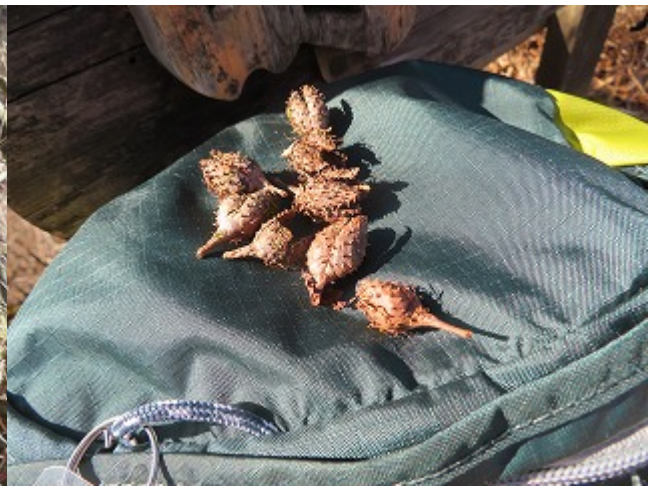
No.1 まりこ 995m△

結実度観察判定　〇＝豊作・沢山付いている。沢山落ちている　　△＝普通・まあまあ。多くもなし、少なくもない　　×＝不作・全くない。ほとんどない

No.2 たかこ 1110m〇

登るにつれ、霜柱が現れる。久しぶりに5センチ級の霜柱を見た。針状の結晶がきれい。なのに、つい踏んでしまう。霜柱はなぜか踏まずにはいられない。
先頭が沢をまっすぐ登るが、ふと左の沢に赤テープが見えた。つい沢を直進してしまい本流を見誤った。ここで、先週からつづく山の基本が発令された。「沢の本流と支流の見分け方とは。本流のほうが水量が多いので川底が深くなっている」
9:29 割石峠。ここからの景色は他ではあまり見られない。岩の隙間から向こう側に下界が見える。不思議な感じ。ここから左側が鋸、位牌方面だが、呼子岳にあるブナの観察木へ行くために右へと曲がる。呼子岳の往復となる。ここにはNo.4 「ひでこ」がある。
加藤さんの名前をつけただけあって、この木は毎年元気いっぱいとのこと。割石峠まで戻り、蓬莱山、そして鋸へ入る。装備の変更。ヘルメット装着。手袋を皮手袋に変更。ストックをザックにしまう。緊張感が全身を覆う。半年前の単独行が思い出される。

No.3 ひろこ 1240m△　　割石峠



No.4 ひでこ 1310m〇

（ここからは長い余談で、私個人の記録となります。私は約半年前の 4 月に、会に復帰する準備として、トレーニングのために一人で山神社から大沢、越前岳に登った。何度も来ているので 2 万 5 千図を持たず、目印を頼りに進んだ。しかし、沢を間違えて左にそれていた。大杉を通過するはずの場所になく、気づかずに通り過ぎたものと思った。割石峠に出たつもりだが、記憶の景色と違う。後でわかったが北面沢を登っていた。やがてガスがでてきたが、先が見えないまま右に曲がり鋸に入ってしまった。2 か所ほど鎖場を超えて、こんなところは割石から越前方面にはないと確信し、これは鋸だと思ったが、もう引き返すにしても進むにしてもどっちも鋸なので、進むことにした。
手袋を持っておらず素手で岩をつかみ、鎖をつかむ。ガスのため、自分のいる場所しか見えない。三点確保を思い出して、言葉に出して慎重に移動した。生きた心地がしなった。風は強く、前後は見えず、ある意味遭難に近い状況だったのではないだろうか。しかしなんとか生きて通過できた。ガスのせいで鋸に入ってしまったこともあるが、ガスのせいで切り立った谷底が見えず手元と足元だけを見ていられたから恐怖心が薄れていたのかもしれない。
よい子は決してまねしないようにしてください。大反省です。普通、鋸は北から南に進むもので、南から北はふつうはやらないということを今回知った。）・・・注＝危険な下りが多い。基本。

No.5 かずこ 1280m×

No.6 せつこ 1270m×

鋸岳　　鋸岳から位牌岳

No.7 としえ 1280m△

No.7の1 無名 1310m○

No.7の2 無名 1310m△

No.7の3 無名 1280m 北面沢コル、稜線の5m下○

No.8 ともこ 1350m○

今回は晴天で全くガスはないが、何もかも見えるがゆえに、落ちたらやばいところが見え恐怖心がこみ上げる。ヘルメットがザックにあたり上を向けない。そのうえ、いつもの帽子をヘルメットの下にかぶっているのでひさしが邪魔でさらに見えない。上を睨むようにして、いく先の手の置く場所を探した。何度もひやひやを繰り返し鋸終了。ここでは、毎年誰かが遭難したり死んだりしているそうだ。後藤さんは鋸にしびれ、加藤さんは嬉々として楽しんでいる。恐るべし７０代の二人。緊張感と疲労で息がハアハアとしているが、加藤さんはどんな時も息が上がらないらしい。恐るべき心拍機能の高さと座った肝だ。この先の位牌の登りは、今日一番の登り。登り切った後のビールが絶対にうまくなる傾斜で 150m30 分の１本勝負。

No.9 かがみ 1458m△

11：55。位牌の頂上には、13 人のグループがお昼を楽しんでいた。まるでピクニック。私たちの冒険とは真逆の登山だったのだろう。お互いにお菓子を配ったり、食事の風景を写真に撮ったりしている。「静岡こまくさ会」らしい。その中に加藤さんの知り合いがいた。顔が広い。

まずはうましビールを一飲み。昨日ビックデイで買った 400 円のうな丼を持ってきたが、値段相応でおいしくなかった。加藤さんから甘酒をいただいた。この景色、季節にぴったり。雪化粧の富士山、葉を落とし木々を見ながら甘酒でほっとする。後藤さんからはシャッキシャキの大根に海苔とドレッシングをかけたサラダをいただいた。

No.10 あけみ 1350m△（看板なしで見過ごしたかも）

No.11 いよ 1336m〇（前岳頂上）

12：30。昼休憩を終え、位牌から前岳の間はブナの幼木の数を数えた。50 センチ以下は大量にあった。大きさからみて 2004 年ごろの豊作時期のものだろうとのこと。たいがいの幼木はひょろっとしているが、1 つだけ小さいながらも見事な枝っぷりのがあり、かわいい。そろそろ盆栽が良く見える歳だろうか。結局数えた幼木は約 100 本（見落としもあり）だった。私は最後を歩きメモ係で、2 人が次々と幼木を見つけては知らせるので、大忙しだった。前岳から大沢までは、山オヤジ尾根を駆け降りる。2006 年ごろは後藤さんは天狗のごとく速く、先を行く姿はほぼ見えなかった。今回は後藤さんがゆっくり下りるので離されることはなかった。

山神社駐車場に戻った。風呂はなし。御殿場の仲間のＳさん宅にお邪魔して反省会（という名の宴会）。4 時間も滞在し、3 人で赤ワインを 3 本もあけた。2 本でやめようといったのに、Ｓさんがどうしてもと 3 本目を開けてしまった。Ｓさんお手製のごちそうの数々。ワインに合うとおもわれるあれやこれや。自家製漬物、エビマヨに始まり、お手製コロッケ。
どちらにもテーブルの上にある牛乳パックから生えているレタスが添えられていた。蒸し牡蠣、冷凍巨峰。話も大いに盛り上がった。お土産にヤーコン、自家製ご飯の御供「ニラキムチ」一瓶、赤トウガラシを 10 本ほどリボンでつなげた飾り（玄関の内側に飾って魔除けになる）までいただいた。大大大満足で帰路に就いた。

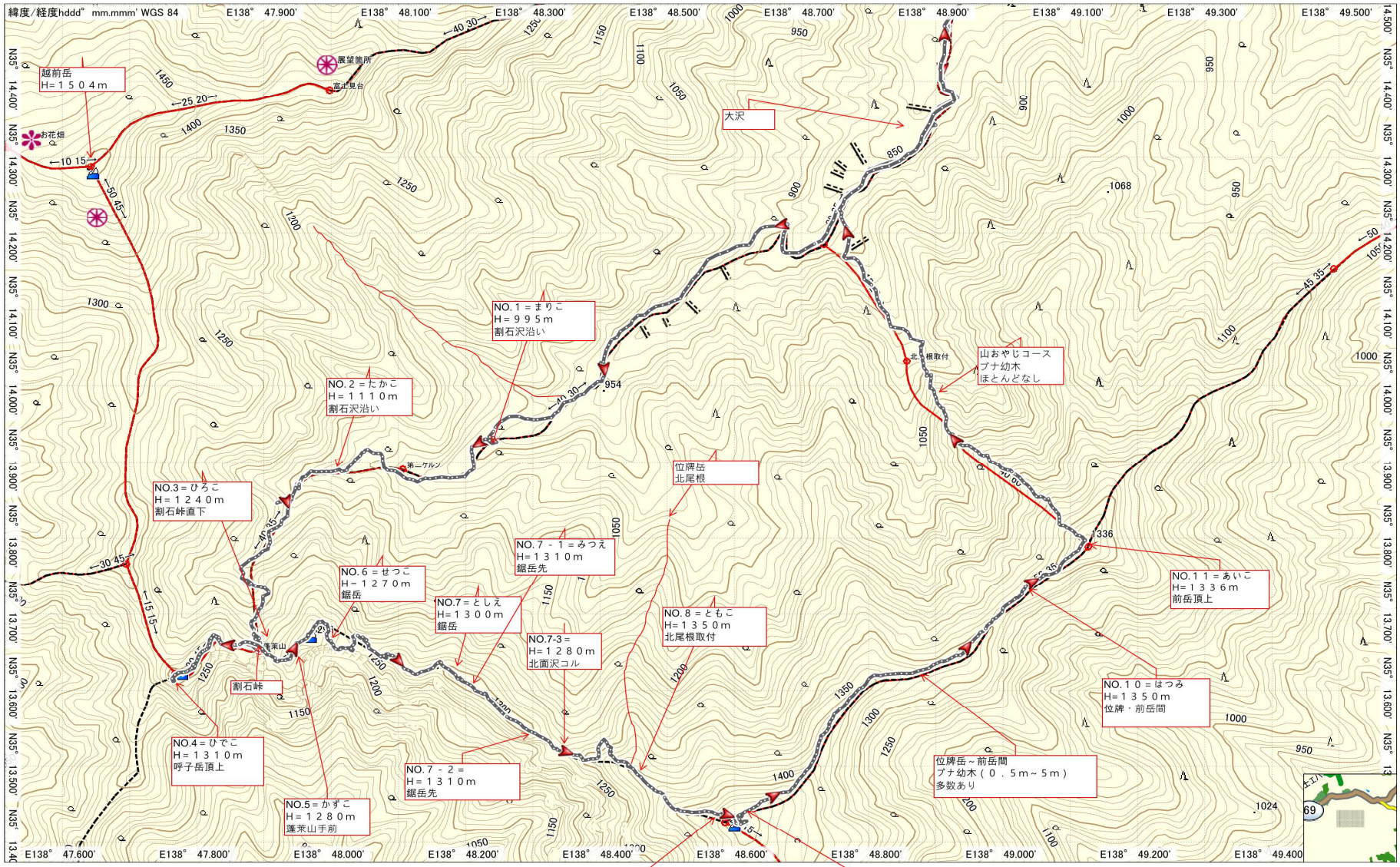
幼木調査（位牌岳から前岳の間の稜線＝直線距離約１．１ｋｍ））

高さ(m)	幼木数(本)			計
	区別開始前	南北区別後		
		南（尾根右側）	北（尾根左側）	
～0.5	11	32	25	68
～1.0	0	3	6	9
～1.5	0	1	7	8
～2.0	1	0	2	3
～2.5	0	1	1	2
～3.0	0	1	2	3

～3.5	0	0	0	0
～4.0	0	0	4	4
～4.5	0	0	0	0
～5.0	0	1	2	3
計	12	39	49	100

ブナ幼木＝約１５ｃｍ

鋸岳・第ニルンゼ


緯度/経度hddd° mm.mmm' WGS 84
越前岳
H=１５０４m
お花畑
展望箇所
富士見台
大沢
NO.１＝まりこ
H＝９９５m
割石沢沿い
NO.２＝たかこ
H＝１１１０m
割石沢沿い
第一ケルン
NO.３＝ひろこ
H＝１２４０m
割石峠直下
位牌岳
北尾根
NO.７－１＝みつえ
H=１３１０m
鋸岳先
NO.６＝せつこ
H－１２７０m
鋸岳
NO.７＝としえ
H=１３００m
鋸岳
NO.７-３＝
H=１２８０m
北面沢コル
NO.８＝ともこ
H=１３５０m
北尾根取付
蓬莱山
割石峠
NO.４＝ひでこ
H＝１３１０m
呼子岳頂上
NO.７－２＝
H＝１３１０m
鋸岳先
NO.５＝かずこ
H＝１２８０m
蓬莱山手前
位牌岳
H=１４５８m
NO.９＝かがみ
H=１４５８m
位牌岳頂上
ブナ巨木多い
北尾根取付
山おやじコース
ブナ幼木
ほとんどなし
NO.１１＝あいこ
H=１３３６m
前岳頂上
NO.１０＝はつみ
H=１３５０m
位牌・前岳間
位牌岳～前岳間
ブナ幼木（０．５m～５m）
多数あり
1068
1024
954
1336
E138° 47.600'
E138° 47.800'
E138° 48.000'
E138° 48.200'
E138° 48.400'
E138° 48.600'
E138° 48.800'
E138° 49.000'
E138° 49.200'
E138° 49.400'
N35° 14.500'
N35° 14.400'
N35° 14.300'
N35° 14.200'
N35° 14.100'
N35° 14.000'
N35° 13.900'
N35° 13.800'
N35° 13.700'
N35° 13.600'
N35° 13.500'
0 m
100 m
200 m
300 m
400 m
GARMIN.
2019/12/09 11:15:17
Japan Topo 10M Plus V3
CanvasMaple Co., Ltd 2014
Garmin Corporation 1995-2014

愛鷹連峰・ブナ定点観察表
観察山域・第一ブロック（大沢～割石沢～割石峠～呼子岳～割石峠～鋸岳～位牌岳～前岳～大沢）

2000/07/11～　　観察者・裾野麗峰山の会

N　0		1	2	3	4	5	6	7	7－1	7－2	7－3	8	9	9-1	10	11
場　所		割石沢	割石沢	割石峠下	呼子岳	蓬莱山前	鋸岳１	鋸岳２	鋸・北間	鋸・北間	北面沢コル	北・位牌間	位牌頂上	位・前間	位・前間	前岳頂上
標　高		995m	1080m	1240m	1313m	1260m	1230m	1300m	2019～	2019～	2019～	1320m	1457m	2019～	1375m	1336m
樹　高		20m	10m	15m	10m	7m	6m	8m	〃	〃	〃	12m	15m	〃	10m	15m
目　通		71ｃｍ	17ｃｍ	66ｃｍ	35ｃｍ	28ｃｍ	16ｃｍ	23ｃｍ	〃	〃	〃	40ｃｍ	67ｃｍ	〃	45ｃｍ	55ｃｍ
愛　称		まりこ	たかこ	ひろこ	ひでこ	かずこ	せつこ	としえ	〃	〃	〃	ともこ	かがみ	〃	みつえ	ちよ
季　節		春　秋	春　秋	春　秋	春　秋	春　秋	春　秋	春　秋	春　秋	春　秋	春　秋	春　秋	春　秋	春　秋	春　秋	春　秋
2000/07/01	10/07	4　○	4　○	5　○	2　△	未　○	未　○	未　○	2019～	2019～	2019～	4　○	4　○	2019～	4　○	3　△
2001/08/19	10/21	4　未	4　未	4　未	4　未	未　未	未　未	未　未	〃	〃	〃	3　未	4　未	〃	4　×	3　×
2002/06/23	11/17	4　×	4　確	4　△	2　×	3　×	4　×	2　×	〃	〃	〃	3　×	4　×	〃	4　△	3　△
2003/06/01	06/01	4　×	4　△	未　△	未　×	未　×	未　×	未　×	〃	〃	〃	未　△	未　△	〃	4　○	4　○
2004/6/27	6/27	4　×	4　×	5　×	4　未	3　未	3　未	3　未	〃	〃	〃	3　未	4　×	〃	4　×	4　×
2005/06/05	10/27	4　×	4　×	4　×	4　未	4　未	4　未	4　未	〃	〃	〃	4　×	5　×	〃	4　×	4　×
2006/06/11	10/22	4　○	4　×	5　○	4　×	4　×	4　×	4　×	〃	〃	〃	3　○	4　○	〃	4　未	4　未
2007/06/10	10/14	4　×	4　×	5　×	4　×	4　×	4　×	4　×	〃	〃	〃	5　×	5　×	〃	4　×	4　×
2008/06/15	11/09	4　未	4　未	3　未	4　未	4　×	4　×	5　未	〃	〃	〃	4　未	4　未	〃	4　×	4　×
2009/05/16	10/17	4　×	4　×	4　×	未　未	未　未	未　未	未　未	〃	〃	〃	4　×	4　×	〃	4　×	4　×
2010/　春未	10/23	4　×	4　×	4　×	未　未	4　×	4　×	5　×	〃	〃	〃	4　×	4　×	〃	4　×	4　×
2011/　春未	10/10	4　×	4　×	4　×	未　未	4　×	4　×	5　×	〃	〃	〃	4　×	4　×	〃	4　×	4　×
2012/05/05	秋未	4　未	4　未	4　未	未　未	4　未	4　未	5　未	〃	〃	〃	4　未	4　未	〃	4　未	4　未

2013/　春未	11/0312/01	4　○	4　○	4　○	4　○	4　○	4　○	5　△	2019～	2019～	2019～	5　×	4　○	2019～	4　○	4　○
2014/　春未	12/17	未　○	未　○	未　○	未　○	未　△	4　×	5　×	〃	〃	〃	未　○	未　○	〃	未　○	未　○
2015/05/09	11/29	4　△	4　△	4　△	4　未	未　×	未　×	未　×	〃	〃	〃	未　×	未　×	〃	未　未	未　○
2016/06/11	11/05	4　×	4　×	4　×	4　×	未　未	未　未	未　未	〃	〃	〃	未　未	4　×	〃	4　×	4　×
2017/05/27	11/09	4　○	4　○	4　○	4　○	4　×	4　×	4　×	〃	〃	〃	4　○	4　○	〃	4　○	4　○
2018/　春未	11/17	4　×	4　×	4　×	4　×	3　×	4　×	4　×	〃	〃	〃	4　×	4　×	〃	4　×	4　×
2019/　春未	12/08	4　△	4　○	4　△	4　○	3　×	4　×	4　×	4　○	4　△	4　○	4　○	4　△	4　×	4　△	4　○
2020/																
		割石沢	割石沢	割石峠下	呼子岳	蓬莱山前	鋸岳１	鋸岳２	鋸・北間	鋸・北間	北面沢コル	鋸・位牌間	位牌岳頂	位・前間	位・前岳間	前岳頂上
		１、	２	３	４	５	６	７	７－１	７－２	７－３	８	９	９－１	１０	１２

赤字＝豊作だった年度、比較的豊作だった年度

活力度判定　５＝健全　４＝ほぼ健全　３＝やや衰弱　２＝衰弱　１＝衰弱大　０＝枯死

結実度判定　○＝豊作・沢山付いている。沢山落ちている　△＝普通・まあまあ。多くも なし、少なくもない　×＝不作・全くない。ほとんどない

（参考＝◎・特筆すべき結実）

メモ

１．２０１０年春＝春は藪が多く、ダニ被害があるので、活力度は秋に行った。

２．２０１３年秋＝鋸岳の岩場には５～１０年の幼木多数あり。ＮＯ．４呼子岳頂上、ＮＯ．６鋸岳は、木に沢山実が残っていた。
よって本年は全山で豊作と思われる。

３．２０１７年秋＝大豊作だった。特に位牌岳大ブナは、枝に沢山ついていた。

４．位牌岳～前岳間の縦走路には、５～１５年生の幼木が約１００本以上ある。

２０１１年・第一回調査　http://susono-reihou.babyblue.jp/53.pdf

２０１９年・第二回調査

５．春未実施の場合、秋観察で活力度を確認した・確認する年度がある。

６．ブナ観測かブナ観察かは、佐藤先生の論文にならい、「観察」で統一した。

愛鷹連峰

位牌岳（１４５８ｍ）大ブナ

２０１７/１１/０９

＊登山の記録、募集しています！！　お寄せください

日本勤労者山岳連盟
静岡県勤労者山岳連盟・東部ブロック
裾野麗峰山の会（愛称・れいほう山の会）

会報「れいほう」
第２５期・１１巻　　２０２０・１月号　　NO.２２１

連絡先　静岡県駿東郡長泉町下土狩１５４１－１２　徳山荘
０９０－８９５６～９９９０　　０５５－９８６～６０７５

HP　http://susono-reihou.babyblue.jp/